

校長室だより

# 共学共高

第  
23  
号

令和4年5月11日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

## 1年生の授業から～part1

世の中では10連休のGWを満喫された方もいたようだが、教育の世界はなかなかそういかない。私も連休とは無縁の日々を過ごした。

そんなGW明けの5月9日(月)、二人の新任の先生方の授業を参観した。

まずは、国語科N先生の1年5組における「言語文化」の授業である。チャイムと共に授業が始まる。「お願いします」と生徒たちが声をそろえる。N先生が「自立語と付属語の違いは何か」と問いかけ、すぐにペアでの確認に入る。隣同士、あるいは一部前後同士でジャンケンをして、負けた方が相手に説明をする。生徒たちも慣れた様子で、N先生はこのジャンケン・ペアワーク(私が勝手に命名)を活用されているようだ。その後、新たな単元の導入をした後に、文法事項の確認に入る。新たな単元は、「用光と白波(もちみつとしらなみ)」である。N先生が範読をした後に、ペアでの音読を行う。生徒たちはよく声が出ている。音読の意義を指導されているのだろう。国語でも英語でも言語を扱う科目では、音読の意義を理解させないと、なかなか声が出ないのが高校生の現状だ。全ペアの音読が終わると、N先生が、ホワイトボードに板書する。「取り出だして」「武士」「この二つは読めましたか？」もう一度ペアで確認する。「とりいだして」「もののふ」と読むようだ。N先生が立って続けに質問する。「タイトルの意味についてペアで確認してください。脚注を参考にしてください」再びペアでの確認作業に入る。「用光」は、ひちりき(管楽器の一種)の名手で、「白波」は、海賊をさしていることが確認できた。ここで新単元の導入が終わる。

続いて文法だ。N先生からの発問は、「活用とは何か?」「用言とは何か?」「体言とは何か?」それに対して、ジャンケン・ペアワークで確認をしていく。「咲く」という基本形を例にして、「咲かず」(未然形)、「咲きたり」(連用形)、「咲く」(終止形)、「咲くトキ」(連体形)、「咲けドモ」(已然形)、「咲け」(命令形)と活用を確認していく。「これを順番に頭に入れておいてください」と伝え、手拍子をしながらかテンポよく生徒たちが「未然⇒連用⇒終止⇒連体⇒已然⇒命令」と声をそろえる。私もその場で覚えた。(当たり前である。高校時代の既習事項だ)

用言とは、「形容詞、動詞、形容動詞」であることを指名された生徒が答える。体言とは、N先生が「せーの」と言うと、生徒たちが一斉に「名詞」と答える。この、「せーの」という先生の声掛けからクラス全員が一斉に答える取組は、私の前任校である都立H高校の国

語科の H 先生がよく使われていたもので、大変懐かしく感じた。

この授業の最後のペアワークは、古文単語帳を使って、一人が用言を読み上げる、もう一人が、それが動詞なのか、形容詞なのか、形容動詞なのかを答えるというものである。考え方としては、動詞は基本形が u 段で終わる（走る、参る等）、形容詞は基本形が「し」又は「じ」で終わる、形容動詞は基本形が「なり」又は「たり」で終わることをよりどころにする。

次の授業では、どのような本文読解が展開されるのか、楽しみである。



続いて、数学科の S 先生の 1 年 6 組における「数学 I」の授業を参観した。

チャイム前からホワイトボードに復習事項の板書をして、チャイムと共に授業が始まる。生徒たちは声をそろえて「お願いします」とあいさつをする。

はじめに、宿題の答え合わせを行う。自然数、整数、有理数、無理数のそれぞれについて、四則計算つまり、加法（足し算）、減法（引き算）、乗法（掛け算）、除法（割り算）を行ったときに、それが元の自然数、整数、有理数、無理数になることが成立するのか不成立なのかを確かめる、というものだ。どういう例を考えて確認したのか、ペアで出し合う。その後、元の自然数や整数に戻らなかった例について、S 先生がクラス全体に投げかけると、生徒が自主的に挙手をして答える。S 先生と生徒たちに間に良好な関係が築けていることがわかる。

次に、「実数と数直線」について、S 先生が説明を始める。数直線を書いて、原点 O に実数 0 を対応させる、以下、1, 2, …、-1, -2, … と対応させる。「それでは、 $\sqrt{2}$ （ルート）2、 $\pi$ （パイ）、 $-12/5$  は数直線上のどこに表せますか？」と S 先生が尋ねる。生徒たちが答えていく。生徒たちの集中が途切れることはない。実数とは、無理数と有理数を合わせたものをいうのだから、ルートや  $\pi$  についても考えておく必要があるのか、と私もうなづく。

続いて、数直線上の点 O から距離 a だけ離れたところにある点 P を考え、点 P の座標を  $P(a)$  と表し、点 O と点 P との間の距離を「絶対値」ということを確認する。生徒たちのイメージを持たせるために、原点を自宅、正の向きに離れた点を学校、負の向きに離れた点を病院として、原点から正負どちらへ離れても原点との間の距離は正となり、病院までの距離が負にならないことも確認された。

その後、まとめとして、実数  $a$  について絶対値  $a$  は  $0$  以上となること、 $a$  が  $0$  以上のとき「絶対値  $a$ 」は  $a$  となり、 $a$  が  $0$  より小さいとき「絶対値  $a$ 」は  $-a$  となることを確認して、生徒たちは具体的な数字や数字の式について絶対値を外す問題を考える。生徒たちはペアでどうなったかを確認したが、絶対値「 $1 - \sqrt{2}$ 」について、どのように考えたのか発言を聞いてみたい気がした。



N 先生も S 先生もこの 4 月に着任したばかりの先生で、お二人とも 1 年生の担任を務めてくれている。教材準備や学級運営に忙しい日々を過ごしながらも、そのやりがいと責任の重さを実感してくれているようだ。

生徒たちがどういう大人と出会うか、どういう大人と接するかによって、生徒たちの人生の方向は変わっていくことがある。これは、私の長年の経験知である。良き大人と出会い、生徒たちがより良く成長してくれる、そんな白梅学園高等学校であり続けたいものだ。

(共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す)